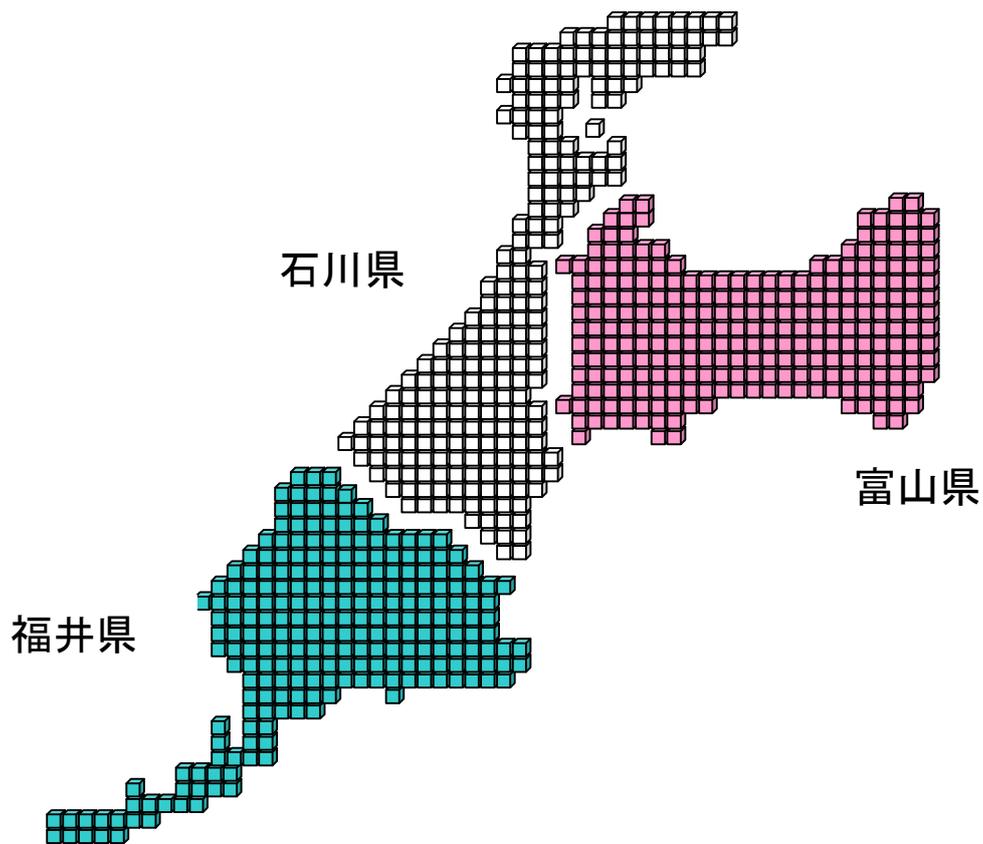


管内 経済情勢 報告



令和 7 年 7 月

財務省 北陸財務局

お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）7年7月判断は、前回7年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、化学が緩やかに回復しているものの、電子部品・デバイスや生産用機械が弱い動きとなっていることなどから、全体では弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	弱含んでいる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は増加見込みとなっている	7年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	6年度は増益見込みとなっている	7年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	緩やかに持ち直しつつある	弱含んでいる	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、全体では緩やかに回復しつつある。コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、園芸用品の動きが鈍いことなどから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、白物家電等に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。新車販売は、持ち直しつつある。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- コメなどの生活物価が上昇しており、食への負担が大きくなっているためか、衣料品の動きが鈍い。(百貨店)
- 食料品は生活必需品ということもあり、買い控えはみられないが、割引に対する反応が強くなっている。(スーパー)
- 単価上昇によって、米飯類を中心に売上げが伸びている。6月後半から気温が上昇していることから、飲料の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア)
- 引き続き生鮮食品をはじめとする飲食料品が好調であり、備蓄米を販売した際は当日に売り切れた。(ドラッグストア)
- 4月以降気温が上がりきらなかったことや、梅雨入りが昨年よりも早く天候の悪い日が多かったことから、花苗など園芸用品の動きが鈍かった。足下では気温の上昇から、エアコンや扇風機が売れている。(ホームセンター)
- 省エネ家電に対する補助金の効果から、エアコン等に動きがみられ、気温の上昇に伴って今後も伸びてくるとみている。スマートフォンが、親子などの複数契約割引キャンペーンの効果もあって、継続してよく売れている。(家電大型専門店)
- 受注残を抱えている車種があり、販売台数は今後も安定して伸びる。新型車が好調に推移しているほか、これを機にショールームへの来場者も増えており、当分、受注増加が続くと見込んでいる。(自動車販売店)
- 昨年は二次避難者の受入れがあったほか、GW期間の日並びが良くなかったこともあり、前年を下回った。(加賀：温泉地)
- 新幹線延伸効果が一巡して落ちついてきたことに加え、大阪万博へ流出しているのか、客足が鈍い。(福井：温泉地)
- 地震前には及ばないが、夏の海産物の時期となり、復興イベントの開催や店舗の新規オープンなどもあって、足下では客足が戻りつつある。(能登：観光地)
- 国内旅行は、昨年の新幹線延伸や応援割の反動で前年割れとなっているものの、コロナ以降回復傾向にある。海外旅行は、以前よりも円安が落ち着いたためか、近場のアジアを中心に需要が回復している。(旅行代理店)
- アメリカを中心にインバウンドが好調であり、全体の半数程度を占めている。また、物価高が続いているが、外食や宴会需要も順調に推移している。(宿泊)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

化学は、大宗を占める医薬品で、緩やかに回復している。電子部品・デバイス、スマートフォン向けや自動車向けを中心に、弱い動きとなっている。生産用機械は、半導体製造装置や繊維機械で持ち直しの動きに一服感がみられるほか、金属加工機械が弱い動きとなっていることなどから、全体では弱い動きとなっている。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用に持ち直しの動きがみられるものの、住宅用が減少していることから、全体では弱含んでいる。繊維は、衣料向けが弱含んでいるものの、非衣料向けが持ち直しつつあることから、全体では緩やかに持ち直しつつある。

- ジェネリック医薬品の需要が高い状態が続いており工場はフル稼働。新工場のライン増設を進めており、生産能力を拡大していく。(化学)
- スマホ向けは、北米メーカー向けで、関税の発動を危惧した前倒し発注の動きがみられるものの、中華圏メーカー向けは引き続き中国国内の同業者との価格競争が進んでおり、売上げを落としている。(電子部品・デバイス)
- 金属加工機械は、欧州を中心とした自動車関連企業からの受注が低調であり、明るさがみえてこない。(生産用機械)
- 建築基準法改正前の駆け込みで年度末に住宅着工は増加したが、人手不足等で工事の進捗が遅いのか、まだ住宅用建材に動きはみられない。(金属製品)
- カーシート向けは、高品質な北陸産地の生地が自動車メーカーから引き続き評価されており、新車種でも採用されるなど受注は堅調。(繊維)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、上昇している。新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。

- 接客の人手が足りず、試着やギフトのラッピングなどのサービスが十分に提供できていないため、機会損失が発生している。(小売)
- 勤務時間が変則的であることや、賃金が安いことから人手が集まらない。一部の旅館は対策として、食事の提供を近隣の飲食店に委託するプランを取り入れている。(旅館)
- 人手不足は深刻で今後も改善は期待できないため、工場の自動化や輸送の効率化など生産性向上に積極的に取り組んでいる。(繊維)
- ここ10年は人材の入れ替わりが激しくなっている状況で、人手をつなぎとめるためには賃上げは必須であり、企業収益が厳しい中、最近も大幅な賃上げを行った。(繊維)
- 奥能登では過疎化が進んでいたなか、地震により若者を中心に人手が流出しており、復興の遅れにつながらないか懸念。(人材派遣)

■ 設備投資 「7年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4-6月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが減少となるものの、化学工業、その他製造などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便などが減少となるものの、金融・保険、農林水産などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 新工場の建設、製造ラインの増設などにより、増加見込み。(化学工業)
- 店舗等施設の移転・増設等により、増加見込み。(金融・保険)
- 前年度の半導体増産のための新工場建設の反動により、減少見込み。(情報通信機械器具)

■ 企業収益 「7年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4-6月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが増益となるものの、自動車・同附属品、生産用機械器具などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、運輸・郵便などが減益となるものの、学術研究、専門・技術サービス、小売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では7年7-9月期は「上昇」と「下降」が均衡、7年10-12月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数で見ると、弱含んでいる。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、前年を上回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。

■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ 消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数で見ると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (7年4月判断)	今回 (7年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつあり、生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
福井県	北陸新幹線の県内開業効果が引き続きみられるなか、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、回復しつつあり、生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。



令和7年7月29日発表

管内経済情勢報告

【概要資料】

〔管内経済の概況〕

北陸財務局管内(石川県、富山県、福井県)の最近の経済動向をみると、緩やかに持ち直している。

※前回4月判断を据置き(令和7年1月以降、3期連続の据置き)

(総括判断のポイント)

個人消費は、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では「緩やかに回復しつつある」。生産活動は、化学が緩やかに回復しているものの、電子部品・デバイスや生産用機械が弱い動きとなっていることなどから、全体では「弱含んでいる」。雇用情勢は、「緩やかに持ち直している」。

【先行き】

○ 雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

【総括判断】

項目	令和7年4月	令和7年7月	前回との比較
総括判断	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→

【主要項目の判断】

項目	令和7年4月	令和7年7月	前回との比較
個人消費	緩やかに回復しつつある。	緩やかに回復しつつある。	→
生産活動	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。	弱含んでいる。	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。	→

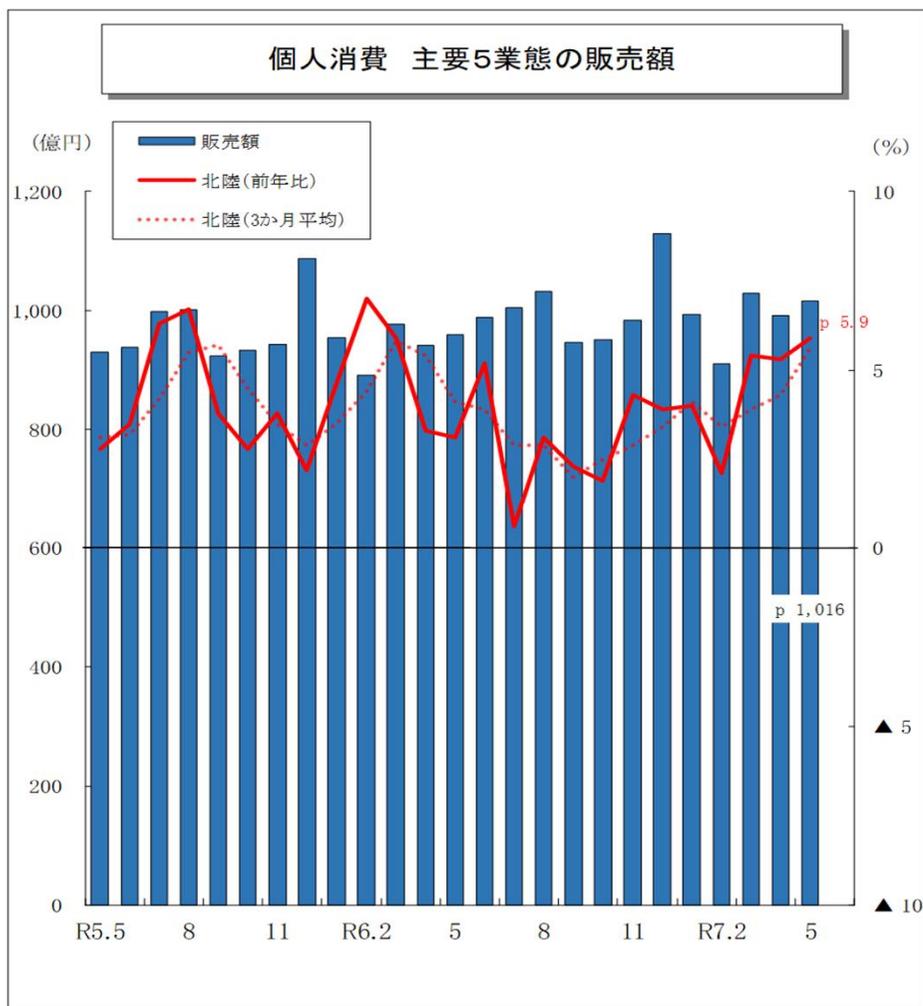
令和7年7月
財務省 北陸財務局

お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

1. 個人消費 … 緩やかに回復しつつある

※ 前回4月判断を据置き(令和7年1月以降、3期連続の据置き)

百貨店・スーパー販売が緩やかに回復しつつあるほか、ドラッグストア販売が拡大していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。



業 態	判 断	前回との比較
百貨店・スーパー	緩やかに回復しつつある	➡
コンビニエンスストア	堅調となっている	➡
ドラッグストア	拡大している	➡
ホームセンター	弱含んでいる	➡
家電大型専門店	緩やかに持ち直しつつある	↗
新車販売	持ち直しつつある	↗

(注1) 主要5業態は、各業態(百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店)の販売額を合計したもの。

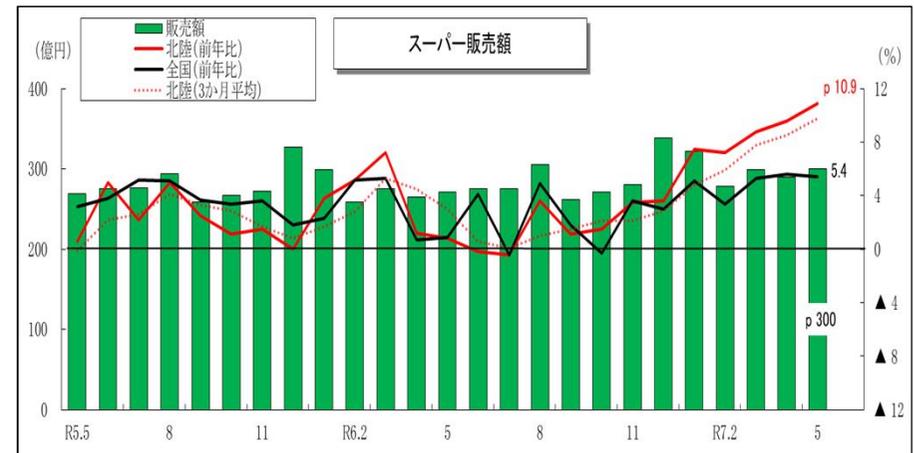
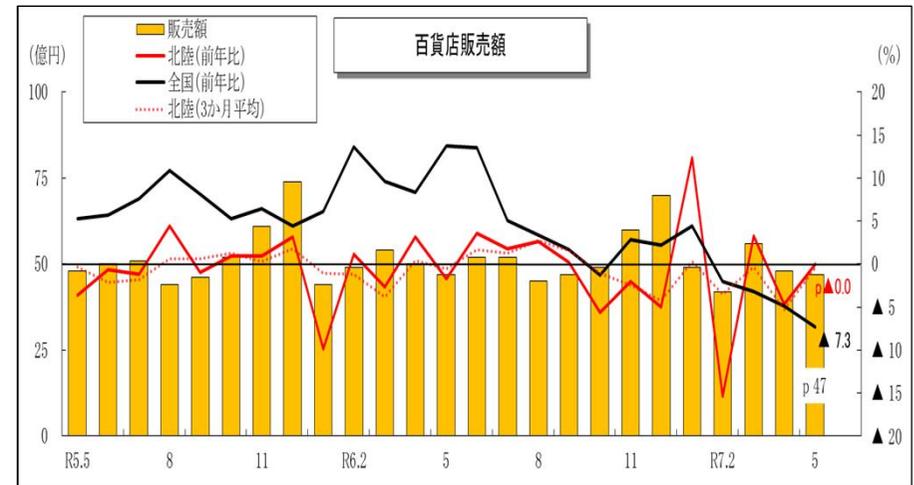
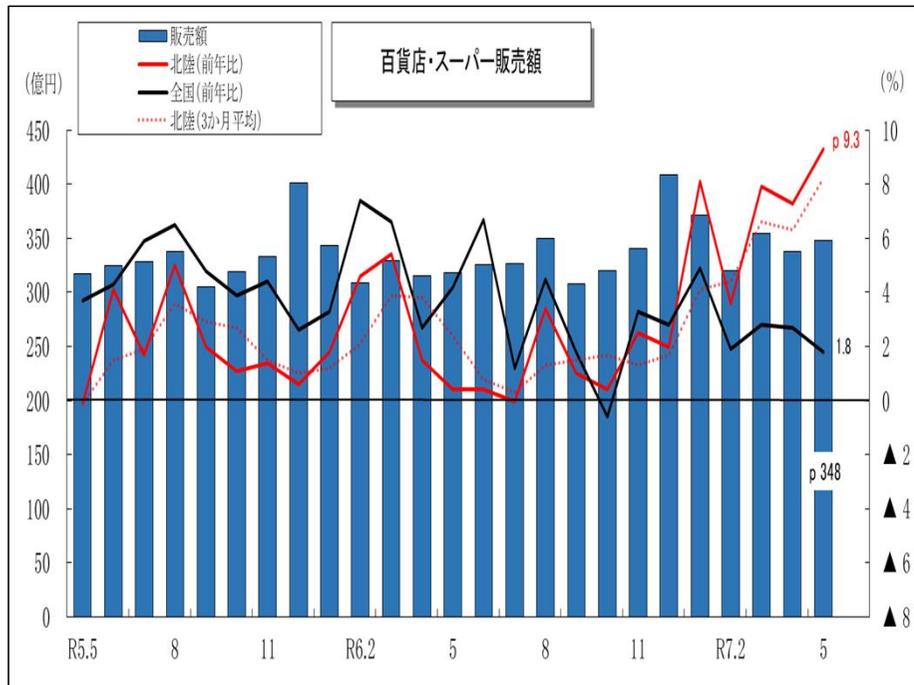
(注2) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、中部経済産業局、北陸財務局

(1) 百貨店・スーパー販売

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品の動きが鈍いものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、緩やかに回復しつつある。

※前回4月判断を据置き(令和7年1月以降、3期連続の据置き)



(主なヒアリング結果)

- コメなどの生活物価が上昇しており、食への負担が大きくなっているためか、衣料品の動きが鈍い。(百貨店)
- 富裕層の購入意欲は落ちておらず、美術や宝飾品の売上げが伸びている。(百貨店)
- 食料品は生活必需品ということもあり、買い控えはみられないが、割引に対する反応が強くなっている。(スーパー)
- コメの価格高騰により、食パンや麺類に流れる傾向がみられる。(スーパー)

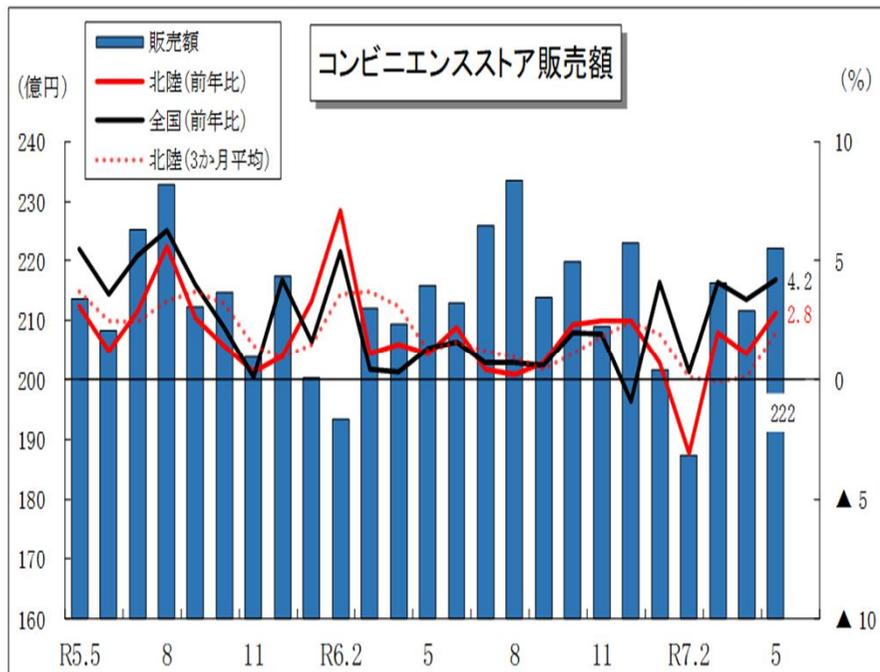
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、中部経済産業局

(2) コンビニエンスストア販売等

①コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。

※前回4月判断を据置き(令和4年10月以降、12期連続の据置き)



(注) 3か月平均は当局試算。

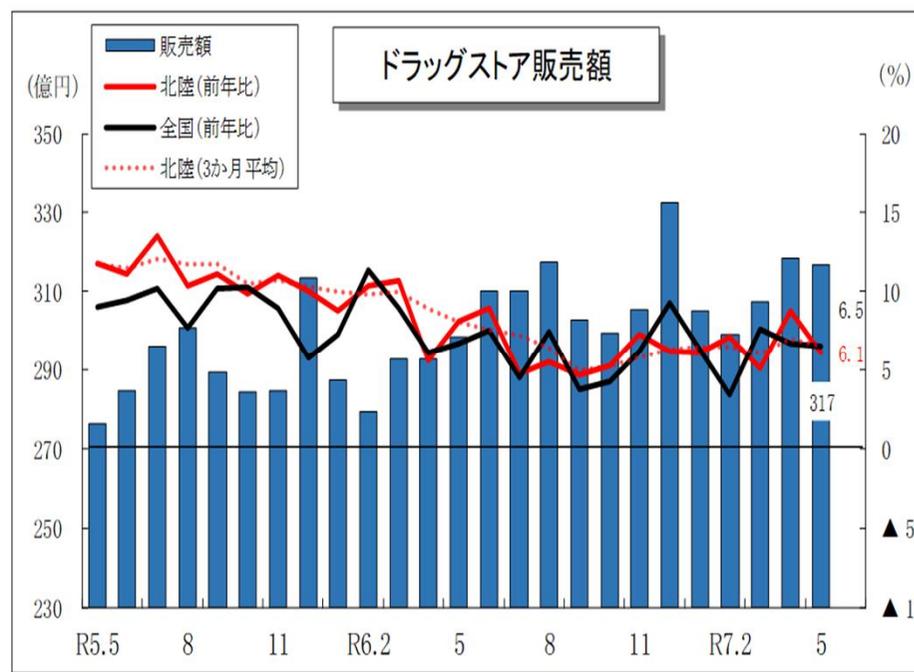
(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)

- > 単価上昇によって、米飯類を中心に売上げが伸びている。
- > 6月後半から気温が上昇していることから、飲料の売れ行きが良い。

②ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。

※前回4月判断を据置き(令和6年1月以降、7期連続の据置き)



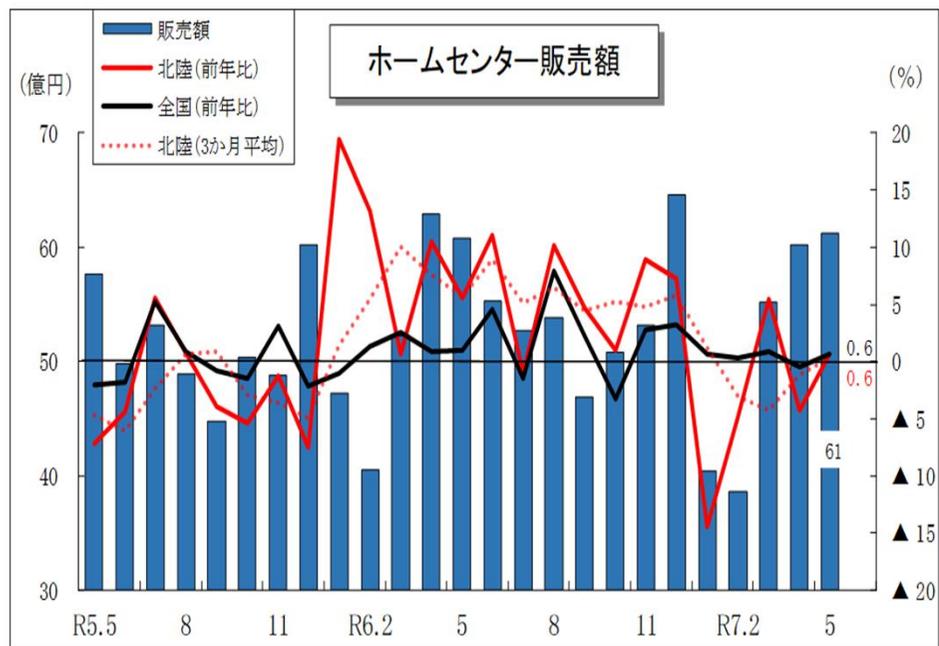
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)

- > 引き続き生鮮食品をはじめとする飲食料品が好調であり、備蓄米を販売した際は当日に売り切れた。
- > 足下では暑い日が多く、UV製品等夏物商品の売れ行きが良い。

③**ホームセンター販売**は、園芸用品の動きが鈍いことなどから、弱含んでいる。
※前回4月判断を据置き



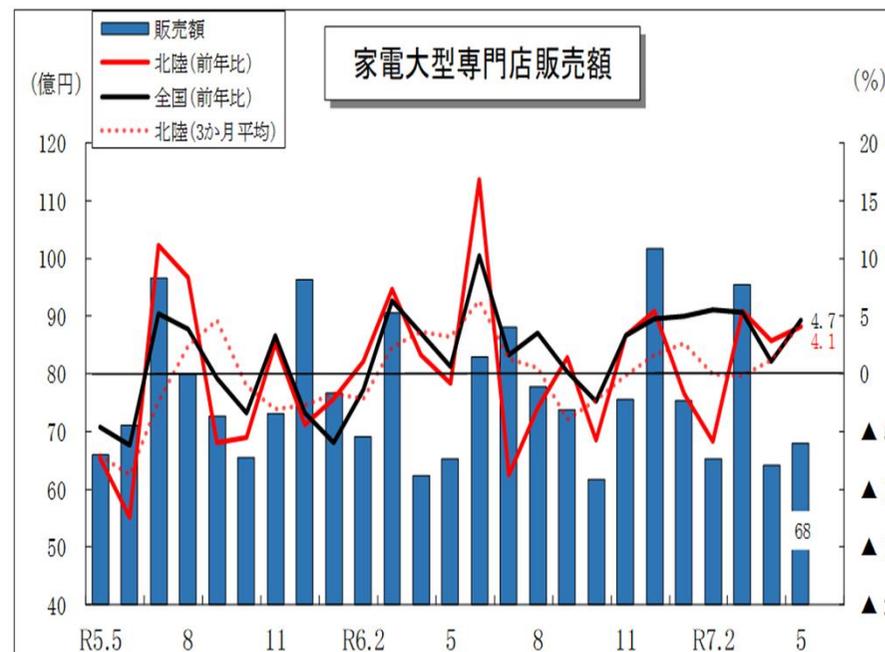
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)
 > 4月以降気温が上がりきらなかったことや、梅雨入りが昨年よりも早く天候の悪い日が多かったことから、花苗など園芸用品の動きが鈍かった。
 > 足下では気温の上昇から、エアコンや扇風機が売れている。

④**家電大型専門店販売**は、白物家電等に動きがみられることから、緩やかに持ち直しつつある。

※前回4月判断(「持ち直しの動きに一服感がみられる」)を上方修正
(令和6年7月以来、4期ぶりの上方修正)



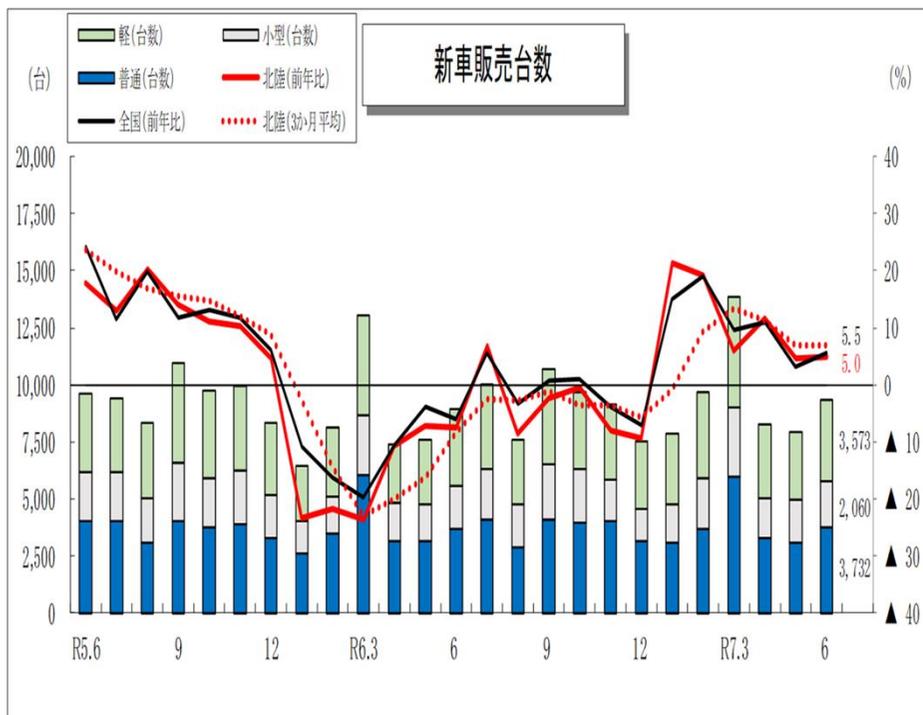
(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、北陸財務局

(主なヒアリング結果)
 > 省エネ家電に対する補助金の効果から、エアコン等に動きがみられ、気温の上昇に伴って今後も伸びてくるとみている。
 > スマートフォンが、親子などの複数契約割引キャンペーンの効果もあって、継続してよく売れている。

(3) 新車販売

持ち直しつつある。 ※前回4月判断(「緩やかに持ち直しつつある」)を上方修正(令和7年4月以降、2期連続の上方修正)



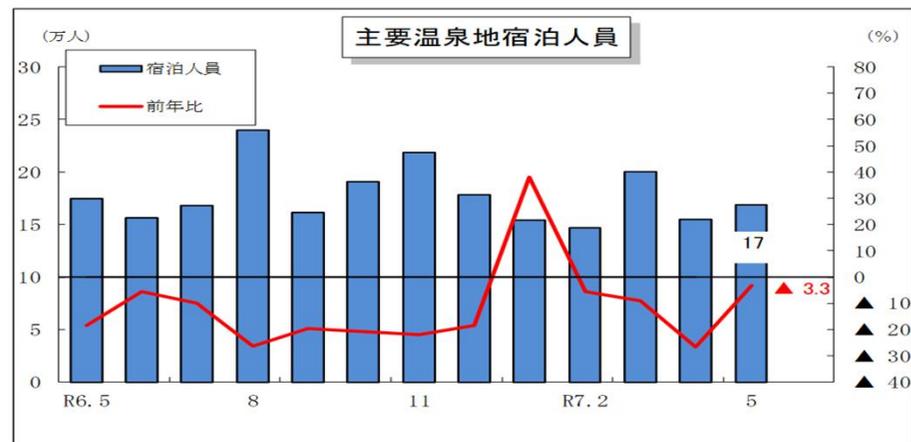
(資料) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、北陸財務局

(主なヒアリング結果)

- 受注残を抱えている車種があり、販売台数は今後も安定して伸びる。
- 新型車が好調に推移しているほか、これを機にショールームへの来場者も増えており、当分、受注増加が続くと見込んでいる。
- 物価高に伴う買い控えや安価なモデルへのシフトはみられていない。

(4) 観光・旅行関連

① 主要温泉地の宿泊客数は、前年を下回っている。



(注) R6.1～12の輪島温泉は未集計。

(資料) 北陸観光協会

(主なヒアリング結果)

- 昨年は二次避難者の受入れがあったほか、GW期間の日並びが悪くなかったこともあり、前年を下回った。(加賀)
- 新幹線延伸効果が一巡して落ちついてきたことに加え、大阪万博へ流出しているのか、客足が鈍い。(福井)

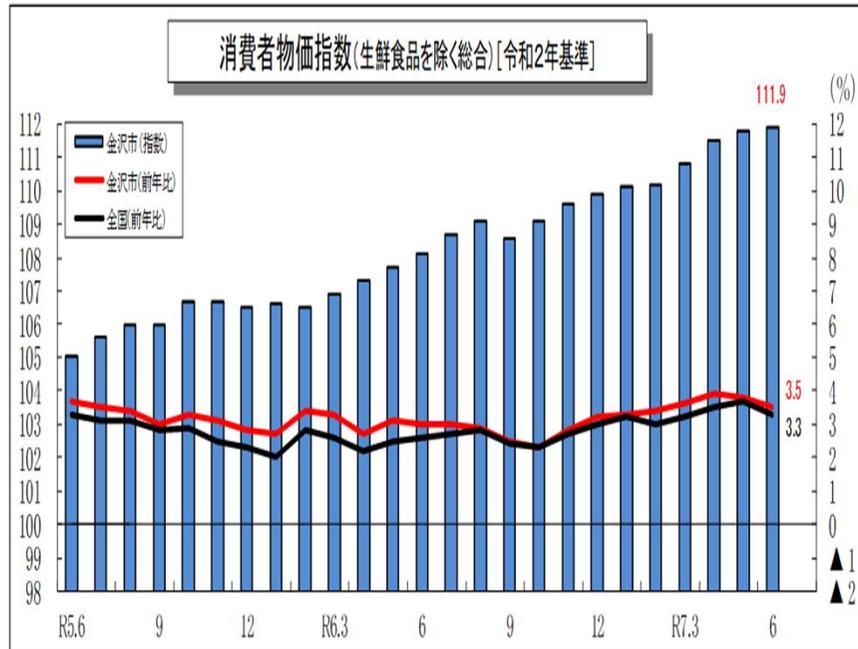
② 主要観光地の入込客数は、前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- 地震前には及ばないが、夏の海産物の時期となり、復興イベントの開催や店舗の新規オープンなどもあって、足下では客足が戻りつつある。(能登)
- 大阪万博への流出や新幹線延伸効果の反動のほか、足下では真夏日が続いていることもあり、前年を下回っている。(福井)

(消費者物価)

6月の消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)は、前年を上回っている。

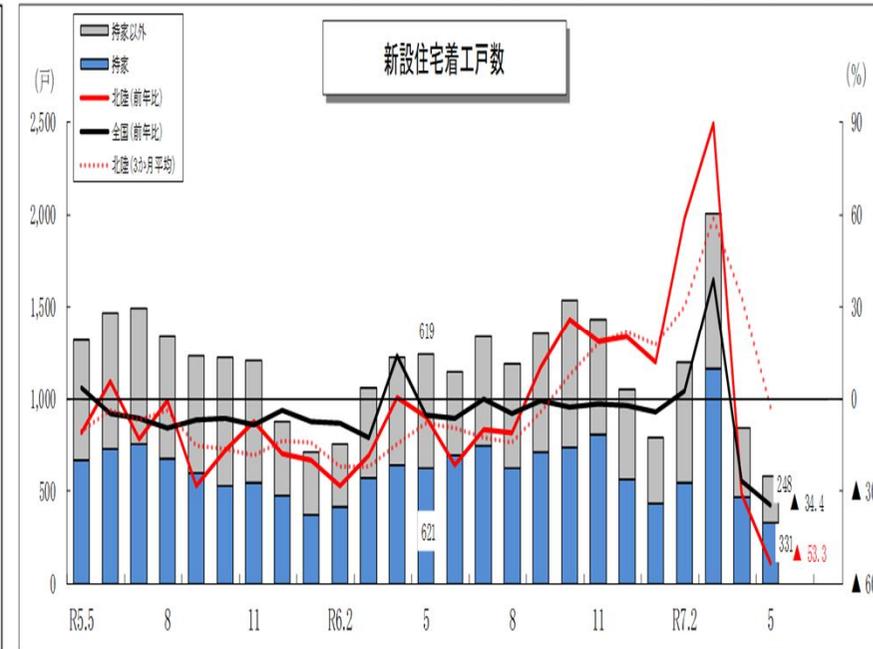


(資料)総務省

2. 住宅建設 …… 弱含んでいる

新設住宅着工戸数などを踏まえると、弱含んでいる。

※前回4月判断(「緩やかに持ち直しつつある」)を下方修正
(令和5年1月以来、10期ぶりの下方修正)



(注)3か月平均は当局試算。

(資料)国土交通省、北陸財務局

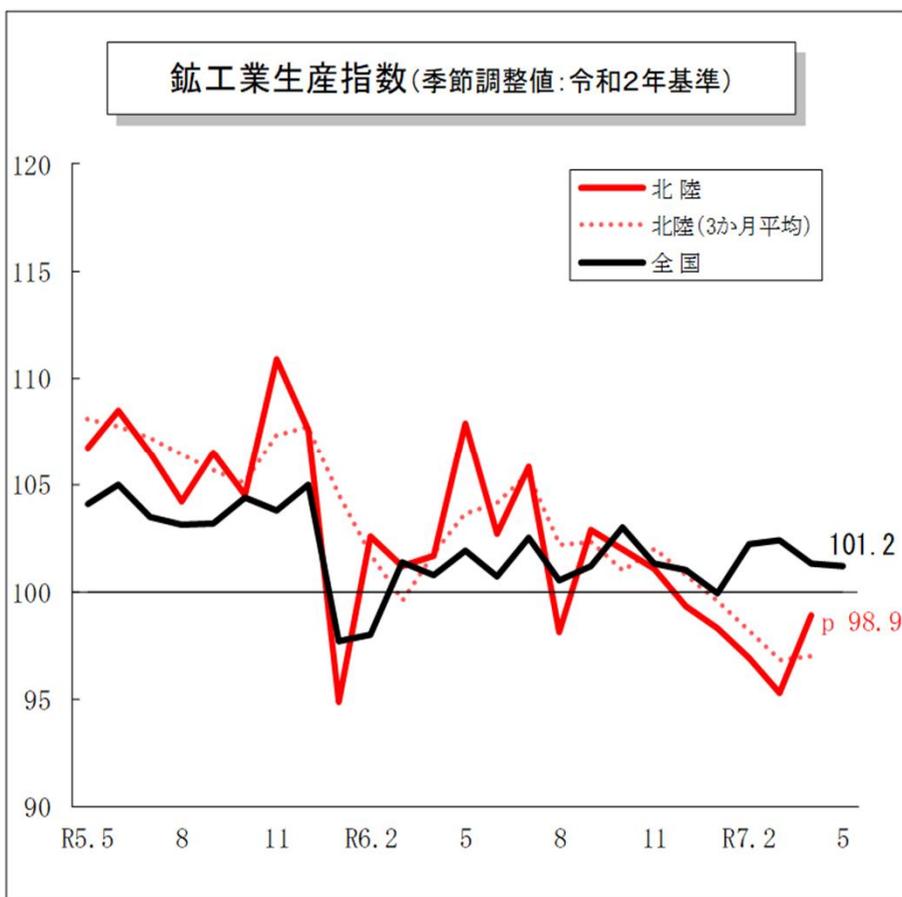
(主なヒアリング結果)

- 3月は建築基準法改正前の駆け込みで増加したが、4月以降、反動がみられており、着工戸数は前年を下回って推移していく見通し。
- 住宅価格が上がっている中、消費者は価格に対して一層シビアになっており、2階建てより安い平屋プランや、各種補助金の活用に関心が高まっている。
- 被災による建て替え需要は増加しており、今後もしばらく続く見込み。

3. 生産活動 … 弱含んでいる

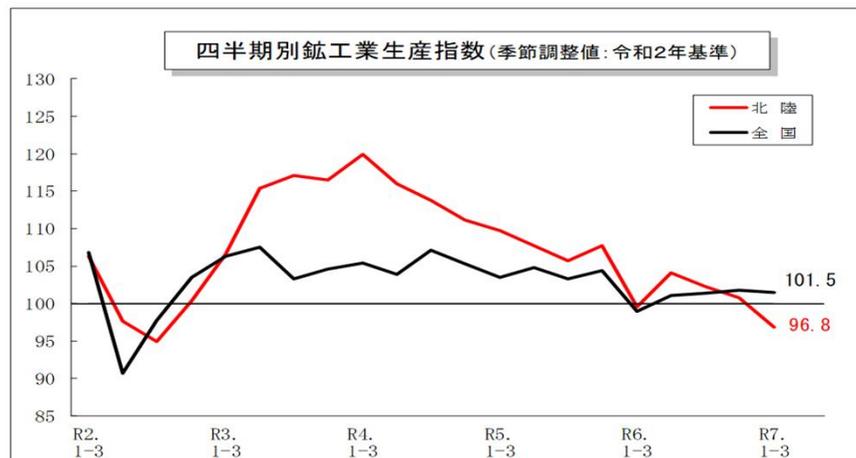
※ 前回4月判断(「持ち直しに向けた動きに一服感がみられる」)を下方修正(令和7年1月以来、2期ぶりの下方修正)

化学が緩やかに回復しているものの、電子部品・デバイスや生産用機械が弱い動きとなっていることなどから、全体では弱含んでいる。



(注) 3か月平均は当局試算。

(資料) 経済産業省、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局



業種	判断	前回との比較
化学	緩やかに回復している	→
電子部品・デバイス	弱い動きとなっている	↘
生産用機械	弱い動きとなっている	↘
金属製品	弱含んでいる	→
繊維	緩やかに持ち直しつつある	→

業種別にみると、

(1) 化学は、大宗を占める医薬品で、緩やかに回復している。

※前回4月判断を据置き(令和7年1月以降、3期連続の据置き)

(主なヒアリング結果)

- ジェネリック医薬品の需要が高い状態が続いており工場はフル稼働。新工場のライン増設を進めており、生産能力を拡大していく。
- ジェネリック医薬品の普及促進策により、前年と比べ生産量が大幅に増加している。

(2) 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けや自動車向けを中心に、弱い動きとなっている。

※前回4月判断(「弱含んでいる」)を下方修正
(令和7年1月以来、2期ぶりの下方修正)

(主なヒアリング結果)

- スマホ向けは、北米メーカー向けで、関税の発動を危惧した前倒し発注の動きがみられるものの、中華圏メーカー向けは引き続き中国国内の同業者との価格競争が進んでおり、売上げを落としている。
- 自動車向けは、想定していたEV車の成長が鈍化しており、生産ラインの稼働状況が上がってこない。

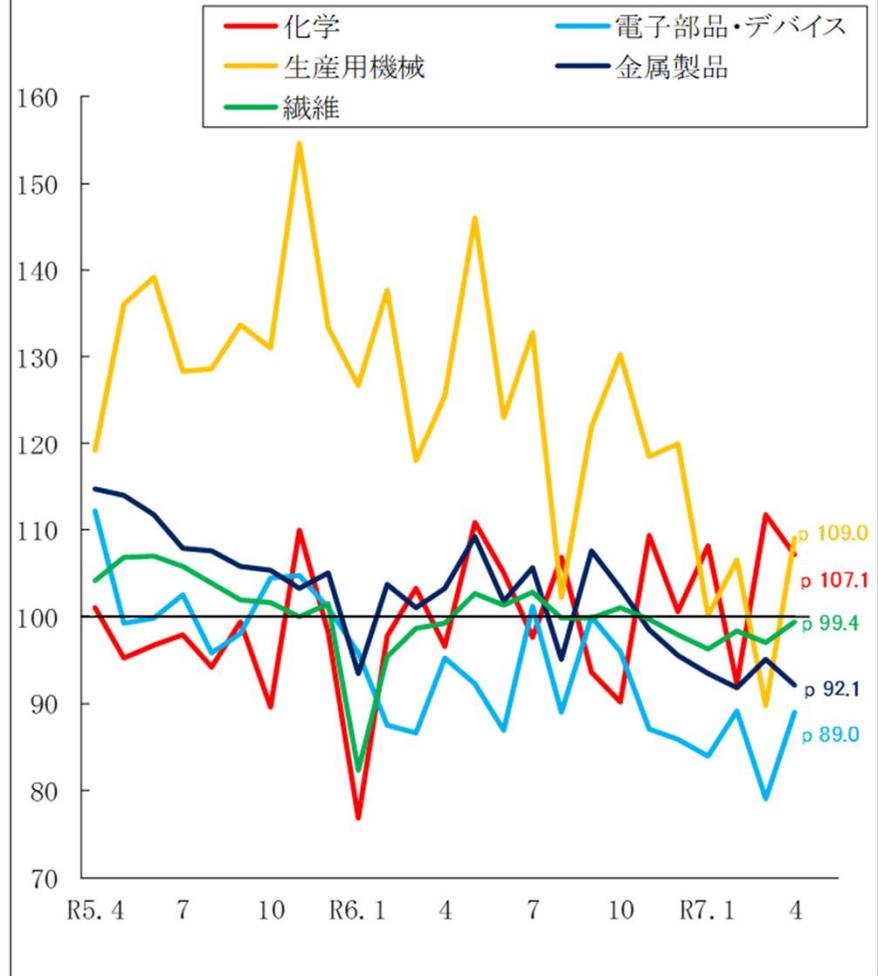
(3) 生産用機械は、半導体製造装置や繊維機械で持ち直しの動きに一服感がみられるほか、金属加工機械が弱い動きとなっていることなどから、全体では弱い動きとなっている。

※前回4月判断(「弱含んでいる」)を下方修正
(令和6年10月以来、3期ぶりの下方修正)

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造装置は、スマホやPCの需要が回復しておらず、回復時期の見通しも後ろ倒しになっている。
- 繊維機械は、欧州メーカーとの価格競争により苦戦しており、生産量は計画に届いていない。
- 金属加工機械は、欧州を中心とした自動車関連企業からの受注が低調であり、明るさがみえてこない。

主要業種の単月生産指数(季節調整値:令和2年基準)



(資料) 中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

(4) **金属製品**は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用に持ち直しの動きがみられるものの、住宅用が減少していることから、全体では弱含んでいる。

※前回4月判断を据置き

(主なヒアリング結果)

- 建築基準法改正前の駆け込みで年度末に住宅着工は増加したが、人手不足等で工事の進捗が遅いのか、まだ住宅用建材に動きはみられない。
- ビル用は、首都圏を中心に新築需要が安定している。

(5) **繊維**は、衣料向けが弱含んでいるものの、非衣料向けが持ち直しつつあることから、全体では緩やかに持ち直しつつある。

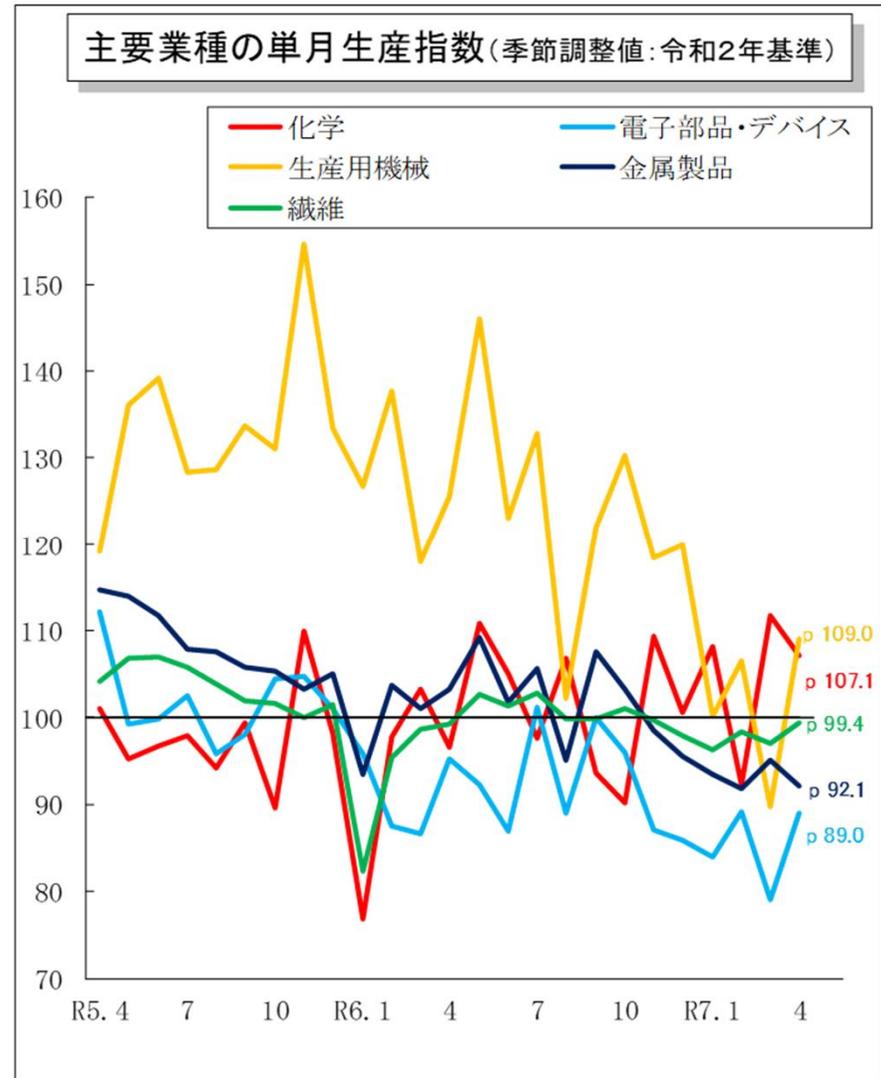
※前回4月判断を据置き(令和6年10月以降、4期連続の据置き)

(主なヒアリング結果)

- 物価高の影響で高級ゾーンの衣類が売れなくなっており、産地全体で高級アパレル向けの受注が減っている。
- カーシート向けは、高品質な北陸産地の生地が自動車メーカーから引き続き評価されており、新車種でも採用されるなど受注は堅調。

(参考) 米国の通商政策に関する足下の声

- 米国の取引先が設備投資に慎重になっており、受注が落ち込んでいる。(はん用機械)
- 今後、何らかの影響があると思うが、具体的にどのような影響があるか予測できず、不透明感が非常に強い。(電子部品)
- 自動車メーカーが関税分を値上げできるかに注目している。できなければ、当社のような下請けにしわ寄せがくるのは必至。(電子部品)
- 昨年、設備投資を行い米国向けの新規事業に参入したが、当初思い描いていたビジネス環境とは全く変わってしまい、収益を確保できるのか懸念が大きい。(繊維)
- 米中間の高関税を回避するため、中国から原材料を輸入している欧米企業から、当社製品への引合いが増えている。(化学)

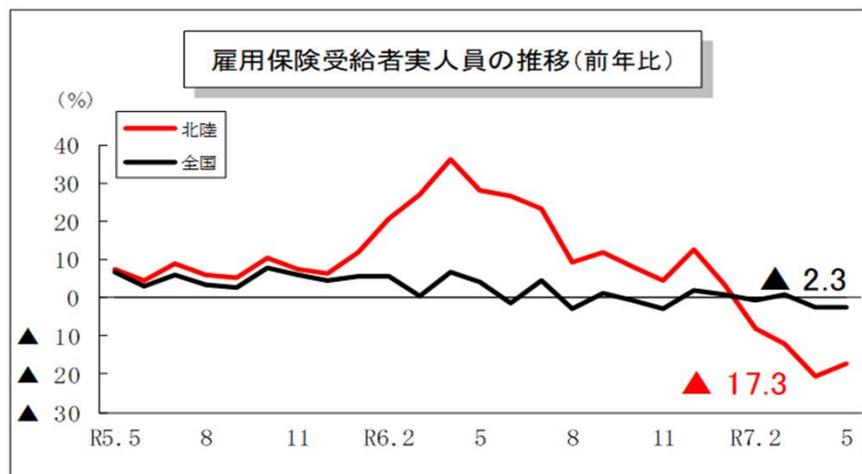
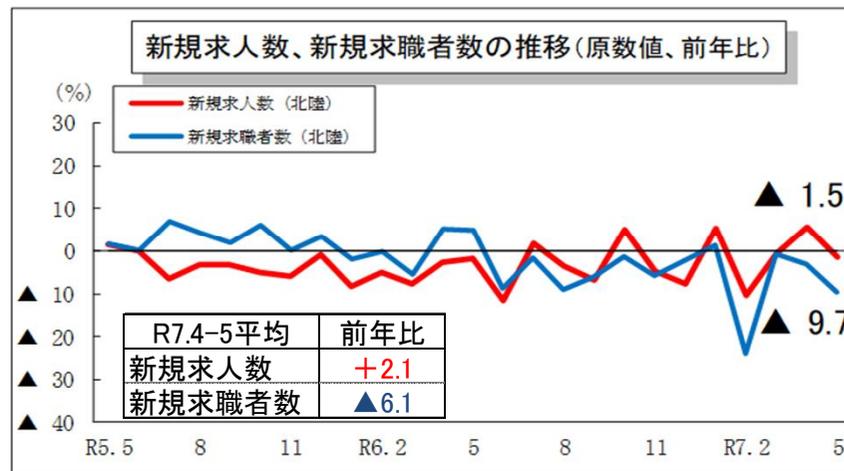
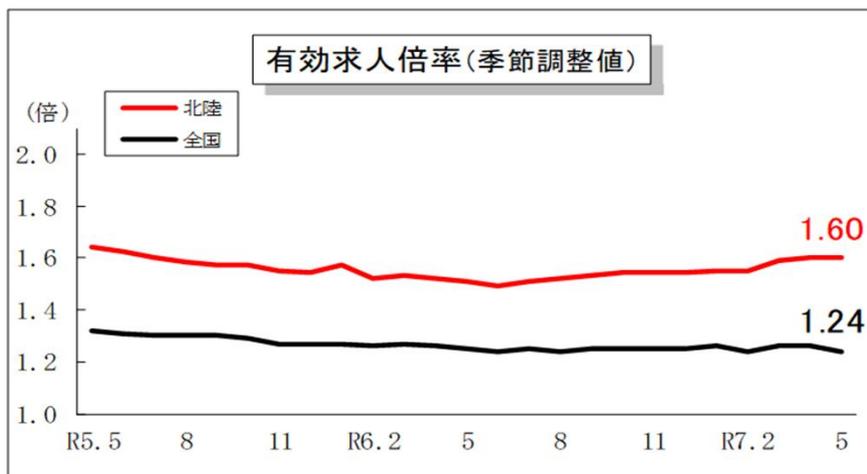


(資料) 中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

4. 雇用情勢 …… 緩やかに持ち直している

※前回4月判断を据置き(令和4年10月以降、12期連続の据置き)

有効求人倍率は、上昇している。
 新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。
 雇用保険受給者実人員は、前年を下回っている。



(主なヒアリング結果)

- > 接客の人手が足りず、試着やギフトのラッピングなどのサービスが十分に提供できていないため、機会損失が発生している。(小売)
- > 勤務時間が変則的であることや、賃金が安いことから人手が集まらない。一部の旅館は対策として、食事の提供を近隣の飲食店に委託するプランを取り入れている。(旅館)
- > 人手不足は深刻で今後も改善は期待できないため、工場の自動化や輸送の効率化など生産性向上に積極的に取り組んでいる。(繊維)
- > ここ10年は人材の入れ替わりが激しくなっている状況で、人手をつなぎとめるためには賃上げは必須であり、企業収益が厳しい中、最近も大幅な賃上げを行った。(繊維)

■主要経済指標 (1)【次ページに注記等あり】

項目			R7年3月	R7年4月	R7年5月	R7年6月	資料出所	備考		
個人消費	百貨店・スーパー販売額	全国	億円 19,350 前年比 2.8	18,025 2.7	18,495 1.8	...	経済産業省	-		
		北陸	百万円 35,499 前年比 7.9	33,786 7.3	p 34,796 p 9.3	...	中部経済産業局			
	コンビニエンスストア販売額	全国	億円 11,041 前年比 4.1	10,779 3.4	11,223 4.2	...	経済産業省	-		
		北陸	百万円 21,639 前年比 2.0	21,168 1.1	22,205 2.8	...	(北陸財務局)			
	ドラッグストア販売額	全国	億円 7,866 前年比 7.6	7,628 6.7	7,792 6.5	...	経済産業省	-		
		北陸	百万円 30,746 前年比 5.1	31,854 8.8	31,667 6.1	...	(北陸財務局)			
	ホームセンター販売額	全国	億円 2,773 前年比 0.9	3,008 ▲0.5	3,089 0.6	...	経済産業省	-		
		北陸	百万円 5,512 前年比 5.4	6,018 ▲4.3	6,119 0.6	...	(北陸財務局)			
	家電大型専門店販売額	全国	億円 4,802 前年比 5.3	3,577 1.1	3,697 4.7	...	経済産業省	-		
		北陸	百万円 9,546 前年比 5.4	6,416 2.9	6,805 4.1	...	(北陸財務局)			
	乗用車新車登録・届出台数	全国	台 420,279 前年比 9.5	286,794 11.0	269,143 3.1	328,750 5.5	(北陸財務局)	・乗用車新車登録・届出台数は、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会調べ。		
		北陸	台 13,825 前年比 5.9	8,267 11.7	7,911 4.5	9,365 5.0				
	主要温泉地宿泊人員	北陸	万人 20 前年比 ▲8.9	15 ▲26.7	17 ▲3.3	...	北陸観光協会	-		
	物価	消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合)	全国 (R2=100)	指数 110.2 前年比 3.2	110.9 3.5	111.4 3.7	111.4 3.3	総務省	-	
金沢市 (R2=100)			指数 110.8 前年比 3.6	111.5 3.9	111.8 3.8	111.9 3.5				
住宅着工	新設住宅着工戸数	全国	戸 89,432 前年比 39.1	56,188 ▲26.6	43,237 ▲34.4	...	国土交通省	-		
		北陸	戸 2,003 前年比 89.7	844 ▲31.0	579 ▲53.3	...	(北陸財務局)			
生産	鉱工業生産指数 (季節調整値)	全国 (10,000)	102.4 (10,000) 前月比 0.2	101.3 ▲1.1	101.2 ▲0.1	...	経済産業省	-		
		北陸 (R2=100)	95.3 (10,000) 前月比 ▲1.7	p 98.9 p 3.8	中部経済産業局			
		化学	(1,540.5) 111.7 前月比 21.0	p 107.1 p ▲4.1				
		電子部品・デバイス	(1,401.6) 79.0 前月比 ▲11.4	p 89.0 p 12.7				
		生産用機械	(1,233.3) 89.8 前月比 ▲15.8	p 109.0 p 21.4				
		金属製品	(905.8) 95.1 前月比 3.6	p 92.1 p ▲3.2				
		繊維	(579.9) 97.0 前月比 ▲1.4	p 99.4 p 2.5				

■主要経済指標 (2)

	項目			R7年3月	R7年4月	R7年5月	R7年6月	資料出所	備考
雇用	有効求人倍率 (季節調整値)	全国	倍	1.26	1.26	1.24	...	厚生労働省	・有効求人倍率の北陸は、当局において各県の有効求人数、有効求職者数を合算して試算している。
		北陸	倍	1.59	1.60	1.60	...	(北陸財務局)	
	新規求人数(原数値)	北陸	前年比	▲ 0.6	5.8	▲ 1.5	...	(北陸財務局)	-
	新規求職者数(原数値)	北陸	前年比	▲ 0.8	▲ 3.2	▲ 9.7	...	(北陸財務局)	
	雇用保険受給者実人員	全国	前年比	0.9	▲ 2.5	▲ 2.3	...	厚生労働省	-
北陸		前年比	▲ 11.9	▲ 20.6	▲ 17.3	...	(北陸財務局)		
公共事業	公共工事請負金額	全国	億円	17,220	27,254	16,541	19,055	東日本建設業保証ほか	・公共工事請負金額は、東日本建設業保証、西日本建設業保証、北海道建設業信用保証の3社による公共工事前払金保証実績に基づくものである。
			前年比	6.0	12.0	4.0	10.8		
		北陸	億円	725	1,247	805	904	(北陸財務局)	
			前年比	57.6	89.6	2.4	76.8		
金融	預 (末残金)	全国	億円	11,611,961	11,653,756	11,684,826	...	日本銀行 信金中央金庫	・預金の金額は表面預金。 ・単位未満は、金額については切捨てで表示している。 ・国内銀行及び信用金庫の合計で、整理回収機構、ゆうちょ銀行を含まない。 ・北陸は、北陸3県内に店舗を置く国内銀行の合計(3県内店舗分)及び北陸3県内に本店を置く信用金庫の合計。 ・国内銀行は、銀行勘定を集計したもの。ただし、オフショア勘定を含まない。また、中央政府向け貸出を除く。
			前年比	1.1	0.7	1.4	...		
		北陸	億円	219,211	219,748	221,696	...	(北陸財務局)	
			前年比	1.7	1.7	3.2	...		
	貸 (末残金)	全国	億円	6,979,025	6,962,561	6,984,733	...	日本銀行 信金中央金庫	
			前年比	3.2	3.0	3.1	...		
北陸		億円	107,591	107,228	108,638	...	(北陸財務局)		
		前年比	0.8	1.5	2.2	...			
企業倒産	企業倒産件数	北陸	件	18	14	19	21	(株)東京商工リサーチ	・前年比については切捨てで表示している。
			前年比	0.0	27.2	5.5	50.0		
	負債総額	北陸	百万円	6,846	5,900	1,424	1,936		
			前年比	229.2	299.4	▲ 6.9	▲ 11.7		

【注記】

- pは速報値である。季節調整等により、数値が改定される場合があるので、利用にあたっては可能な限り最新号によって下さい。また、資料出所先において、最新の指標や改定値等の公表が行われている場合があるので、利用にあたってはご留意下さい。
- 「北陸」は、断りがない限り、石川、富山、福井の3県である。
- 各県分の資料のみ発表されているものを北陸3県分として集計等している場合は、資料出所欄に「(北陸財務局)」として表示している。
- 金額等の計数及び前年比は、断りがない限り、四捨五入で表示している。